

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第335回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

関東地方の5月は快適な季節だ。少し深くなった若葉の緑と、敷地内や街路に植えられたツツジの花のコントラストが優しく目に入る。しかし、今年の5月は様子が違う。新型コロナウィルス感染症の影響で

思うように外出できない。家にずっといて運動不足になったので散歩に出掛け、途中で不思議な形の建物を見つけた(写真)。

日本のマンションやアパートの建物は、整った矩形のことが多い。正面から住棟を見ると、縦横に整然と



吉田 勝
不動産学部3年

打ち放しの集合住宅

遊び心などを造形美に

形を楽しんだことを思い出す。

第2は、どっという間取りか想像がつかない。不整形な部屋や無駄なスペースが生まれ、事業収益に影響しそうだが、分からなさや謎に感じる魅力がある。

第3は、打ち放しコンクリートだ。冷たい感じがするほか、適切に維持管理しないと美しさが保てない、耐用年数に影響する可能性がある。

住戸が並んでいる。住戸平面も長方形で、内部を更に正方形や長方形の部屋に細分する。家具も置きやすく、利用効率がよい。ペランダがあり、外壁はタイルやペンキで仕上げるのが一般的だ。

これに対して、写真の建物にはいくつかの特徴がある。第1は、建物形状である。形が不そろいで隙間が多い。子供の頃、おもちゃのブロックを無造作に積み上げ、いろいろな

り、最近はまだあまり使わない。この建物は角がシャープに見える特徴を保ちつつ、型枠のつなぎから生まれる目地や丸いPコン跡が程よく不均一で、手作り感がある。第4は、多様な植栽だ。打ち放しコンクリートの無機質さに対して、建物の足元に並ぶ、いろいろな高さの異なる樹種の植栽が温かさをもたらしている。

第5は、シュールな感じのルーフバルコニーだ。透明な板や鉄柵がその存在を感じさせるが、プライバシーがなく非現実的な印象を受ける。このルーフバルコニーを使いこ

なすセンスを持ちたい。

質素な感じでペランダがないこの建物を見て、大学の研修で行った韓国の超高層マンションを思い出した。冬の寒さが厳しい韓国では外気に面するペランダは実用的でなく、ガラスなどで覆って洗濯物干場などに利用する。このため外から見ると、窓がぎっしり並んでいるように見える。一見するといびつな形に見



程よく不均一な外観デザイン

える建物だが、遊び心や違いを楽しむ気持ちをデザインのおしゃれに取りまとめたものだ。デザインがおしゃれな建物に一度は住んでみたいと感じた。

【教員のコメント】

建築の教科書で鉄筋コンクリート造は造形が自由と習う。型枠や鉄筋で造るからむしろ不自由と思うが、彫刻的な造形美の建物を見ると合点する。中でも打ち放しは寸違わぬ精度を求め、上から化粧することもないスタイリッシュな造形美を持つ。